



電車どおり

平成31年1月25日発行 第161号 函館中央病院 発行責任者 本橋 雅壽



総合周産期母子医療センター、北海道がん診療連携指定病院、北海道小児地域医療センター、日本医療機能評価機構認定施設

- 基本方針
- 道南の基幹病院として急性期医療に取り組みます。
 - 断らない救急医療を実践し、住民の信頼と期待に応えます。
 - 総合周産期母子医療センター及び北海道がん診療連携指定病院として高度で専門的な医療を提供します。
 - 「患者さまの権利」を尊重し、安心して安全なチーム医療を実践します。
 - 医療環境の発展と充実のため、地域の行政・医療機関との連携を強化します。
 - ワークライフバランスに配慮した職場環境づくりと人材育成に力を入れます。

糖尿病とお薬について

治療に欠かせない大事なお薬と上手に付き合うことが大切です。

みなさんも一度は「糖尿病」という名前を耳にしたことがあると思います。ですが、どんな病気でも何が困るのか、治療はどのような方法があるのかまで詳しく知っている方は少ないのではないのでしょうか？



薬剤師 星野 太吾

まず糖尿病という名前から、尿に糖分が入っていることは読み取れます。尿に糖分が排出されるということは、血液中に糖分が過剰にあり、体で処理が出来なくなっている高血糖状態と言われるものです。

この高血糖状態が長く続くと、血管の中が糖分で傷ついていき、様々な合併症が現れます。細かい血管の多い神経・眼・腎臓では、糖尿病発症から10年前後で障害が出てくると言われています。また、さほど重症では無い糖尿病予備群の時期でも徐々に血管が硬くなり、将来、心筋梗塞や脳梗塞の危険性があるので、注意が必要です。ただし、糖尿病でなくても尿糖が出る場合もありますので、自身の病気を調べるためには検査を受けましょう。

では、糖尿病の治療はどうすれば良いのでしょうか？ごく簡単に言うと、高い血糖を下げてあげることになります。基本は食生活の見直しと適度な運動が大前提ですが、それでも血糖が下がらない方には、お薬による治療が始まります。

お薬による治療は、血糖を下げるインスリンというホルモンを出してくれるお薬、インスリンを補ってあげる注射や、そもそも血糖を上げにくくするお薬等があります。また、近年ではインスリンの作用とは関係なく、余分な糖分を尿に排泄し、血液の中の糖分を下げるというお薬も出てきました。「糖尿病」という言葉を考えるとなんだか矛盾したようなお薬ですね。

どのお薬を使用するのは、患者さま個々の一日の中の血糖のバランスやその他の検査で決まりますが、どんなお薬であれ、きちんと使い続けることが重要です。

中央・病・院・前



ココアにはまっています。ココアを飲むと心が安らぎ気持ちが落ち着きます。あたたかくてやわらかいあの甘い匂いは、気持ちまであたためてくれますよね！ミルクやお湯に溶けきれずカップの底に濃いのが残ってしまったり、お湯を入れ過ぎると60点の味になってしまいましたが、そういう素直に本音を見せない部分を含めてココアが大好きになりました。ココアをもっと探求しようと思います（笑）。さて、私とココアの恋愛話はさて置き、新年がスタートし1ヶ月が経とうとしています。今年は元号が変わる節目の年ですね。皆さまにとって素敵な1年となりますように！本年もよろしくお願ひ申し上げます。

糖尿病の合併症が現れるときには、もう症状が進行してしまっている状態であり、放っておいても良くはなりません。「最近調子いいから、薬飲まなくていいや」「ちっとも体調良くならないから病院行くのをやめよう」とは考えないようにしましょう。

最後に、お薬には良い面もあれば悪い面もあります。糖尿病のお薬の代表的な副作用として、血糖が下がりすぎて起こる低血糖という症状があります。これは食事・運動・薬の量のバランスが悪いと起こり、脱力感・冷や汗・空腹感という症状が現れます。低血糖の時は糖分を補充する必要があるため、常備することが重要です。副作用のリスクもありますが治療に欠かせない大事なお薬とは上手に付き合うことが大切です。何か不安なことがあればお気軽に私たち薬剤師へご相談ください。

薬剤師：星野 太吾



年男の抱負です！

2019年は私が函館中央病院に入职し、ちょうど10年という節目の年となります。この10年多くの方々に支えられ、またご指導いただきここまで成長することが出来ました。今後も自分自身の研鑽を重ね、またこれまで自分が先輩方から受け継いできたことを後輩たちに伝えて行き、リハビリテーション科、函館中央病院の発展に少しでも力になれるよう頑張っていきたいと思っております。



理学療法士：相馬 栄大

函館周産期講演会を開催しました

1月18日(金) 当院にて「函館周産期講演会」を開催しました。道南圏の産科・小児科医療従事者をはじめ、保健所などで日頃より母子保健に携わる保健師の方などおよそ60名の参加がありました。講演のテーマは「妊婦健康診査にまつわる二つの話題」とし、東京医療保健大学臨床教授の松田義雄先生を講師としてお招きしました。講演では、「母子健康手帳の活用」「妊娠初期より社会的支援が必要な妊婦を抽出するための取り組み」についてお話がありました。また、函館市で実際に起きている事案について、参加者それぞれの立場からの意見交換が行われ、改めて各機関の協力および連携体制の充実が大切であることを学びました。

当院は道南の総合周産期母子医療センターとして他機関と協力し、その役割を果たすべく、この講演会で学んだ内容を患者さまと地域の未来のために実践してまいります。



今月の笑顔

秘書課の堀江洋一と申します。当院南棟8階の図書室で勤務しております。

この図書室は、院内の職員が業務上で必要な論文を探すために利用しております。図書室のス



秘書課 堀江 洋一

タッフは、こうした文献検索のお手伝いや、当院で所蔵していない文献の複写を依頼された際、他の病院図書室や大学図書館などに協力いただき、文献の取り寄せを行います。

また、図書室に併設されている総合医局(医師の休憩場所や医師が業務を行うことが出来るフリースペース)では、医師からの問い合わせや業務依頼などへの対応も行います。

多岐に渡る仕事を進めるにあたっては、上司や同僚のサポートが欠かせません。周囲にはいつも助けられてばかりで、感謝することばかりです。

1階「図書情報コーナー」の書籍も管理しております。お気づきの点がありましたら、お声掛けください。

インフルエンザ感染にご注意を！

昨年末よりインフルエンザの感染が拡大傾向にあります。お子さまのいる家庭では学校での感染や二次感染も心配です。外出からの帰宅時は、手洗い・うがいを丁寧にしましょう！

— 中病今昔物語 —

今昔物語その6 ～コンサートホール～

現在、ドトールコーヒーショップがある場所は以前どんな場所だったかご存知ですか？平成20年(2008)12月にドトールがオープンするまでは、テーブルとイスが置いてある休憩スペースでした。そのスペースを活用し「院内ふれあいプロジェクト」が主催する「ふれあいコンサート」が頻繁に開催されていました。コンサートでは高校生による吹奏楽部の演奏やピアノ奏者の方などにご協力をいただきご来院された方に素敵な音楽を届けておりました。さらにコンサートは様相が変わっていき、フラダンスの披露や落語家の漫談なども行われるようになったのです。

現在はドトールで多くの方が飲食をしながら憩いの時間を過ごされています。



今



昔

～イベント情報～

●がんヨガ教室

平成31年2月1日(金)

※毎月第1金曜日に好評開催中です！

●市民公開講座

平成31年3月26日(火)

※診療放射線技師による講演を予定しております！

セカンドオピニオンのご相談は…

総合医療支援センター(中央棟1階)へ
お気軽にご相談下さい。

【患者さまの権利】

- ・安全で良質の医療を平等に受ける権利
- ・自らが受けている医療について、十分な説明を受け、知る権利
- ・セカンドオピニオンを求める権利
- ・自らが受ける医療に参加し自己決定する権利
- ・個人のプライバシーが守られる権利
- ・個人として常にその人格、価値観が尊重される権利

【患者さまの義務】

- ・自らの健康状態を医療者にできるだけ正確に知らせる義務
- ・医療者の説明や自らの疾病状態の理解に務める義務
- ・病院の規則や医療者の指示に従い、医療に参加・協力する義務
- ・他の患者さまの治療や医療者の業務に支障をきたさない義務
- ・受けた診療に対し、医療費を支払う義務



『電車どおり』では、皆さまのお役に立ちそうな情報をどんどん掲載していく予定です。記事に対するご要望などがございましたら、広報誌担当事務局までお問い合わせ下さい。

連絡先：TEL 0138-52-1231 (内線2263)

次号発行予定は2月25日です。お楽しみに！！